日本行動計量学会会報

第38号
1986年1月27日
日本行動計量学会
運営委員会広報係
（〒106）東京都港区
南麻布4－6－7
統計数理研究所内

巻頭言

情報化先進国に在って思うこと

池田　央

トフラーのいう第三の波をどの程度まで被っているのか肌で感じたい気持もあって、今回の滞米生活では、できる限りそうした米国における情報化社会の実際を体験することに努めています。とくにテレコミュニケーションの発達は確かに便利で、われわれの生活機能のある部分を急速に変えつつあることは確かでしょう。それと同時にあらたな問題を感ずることも多いので、私の最近の二三の経験を書いてみることにしましょう。

たとえば飛行機の予約。一言の英語を許さなくても電話で予約できるというので試みてみることにしました。発進地、到着地、予定日などを問われるままにプッシュボタンを押していけば、利用可能のフライト・ナンバーや運賃がコンピュータ合成語で教えられ、希望のフライトをやはりプッシュボタンで答えれば予約完了です。代金もクレジットカードで済ませます。慣れればこれほど便利なものはないのですが、さて実際は？

今まであまり感じなかったのですが、こういう社会で言語ハンデを持った人はどうなるのかということ。たとえば向こうのいう英語の意味がよく分らなくなってしまうと、人間相手のように聞きかえすことができず、どうしようもなくて切れてしまうこと。したがってまた最初からやり直して前回聞きとれなかった部分をよく耳を澄まして聞くということを何度か繰返してやっと使い方が飲込めるという始末です。日本の駅で慣れないお婆さんがうろうろしている気持ちが改めてよく分る気がしました。駅のようにまわりに人がいれば尋ねることも可能ですが、人のいない公衆電話などでは困ってしまいます。いかなるヘルプ機能を用意するのがよいか、その方法と理論の開発は新しい大きなテーマに思えます。

テレコミュニケーションはたしかに便利なシステムですが、提供される情報のほとんどは自分に関係のない情報です。その中で自分が必要とするものをどう決めるかということは実は大変難しい仕事のように思えます。電子メールも最初のうちは誰かからメッセージが届いていないかなどとボックスを開くのが楽しみですが、そのうち開いてみたら大勢の人からわっとたくさんのメールが来ていて、しかもその一人一人に返事をすることを考えるとぞっとします。答えないのは不親切ですし、第一どの人には返事をし、どの人に返事をしないのかを決めるのにもまず読むという仕事は避けられません。とくに大勢の学生をかかえている教師が、大勢の学生から質問攻めにあったとき、これをどう処理するか、あらたな大問題になるように思われてなりません。

被害を蒙った例をもう一つ。ボストンへ行ったとき、やはり事前にコンピュータ通信で安いホテルを探し出し、ツインで三十ドルという一寸信じがたいホテルが駅のまん前にあるはずなので、まず当ってみることにしました。ところがその場所には今にもくずれそうな取り壊し寸前の建物があるだけで、通りがかりの人に聞くとかつてはホテルであったという。つまり情報が更新されていないと人に迷惑をかけるという至極当然な話も経験しました。膨大な情報をいつも最新のものにしておくというのはコストのかかる作業なので、実用化にあたっては難問が数限りなくあるという感じです。機械と人間行動の接点の開発、そこに行動計量学が今後取組んでいかなければならない大きなテーマがあるように思えます。

（いけだ・ひろし　在ピッツバーグ大　日本行動計量学会理事　立教大学教授）

▽▽▽ 会議記録 △△△

○理事会

時　昭和六十年十一月二十八日
所　統計数理研究所
出席者　理事九名・監事一名

1. 学会賞について水野理事（京極学会賞委員会委員長の代理）より最終報告を承認した。同時に学会賞委員会は解散し、学会賞選考委員会が設置され、第14回大会での総会で表彰する授賞者を選考することになった。
2. 第14回大会の準備が進んでいることが古川理事（第14回大会実行委員長）より報告された。

○運営委員会

時　昭和六十一年一月十一日
所　統計数理研究所
出席者　運営委員　七名
　　庶務担当理事　一名

1. 月例シンポジウムについて
第41回「日本人研究のあり方」（二月一日）、第42回「三相データの解析方法」（二月七日）を開催する運びとなったことが報告された。「医学における因果モデル」（四月以降）、「情報公開とプライバシー」（三月下旬～四月上旬）などについて検討した。
2. サマーセミナーについて
講習会と隔年で実施する方針のとおり、今年はサマーセミナーを実施することを確認した。テーマおよび招待講師などについて検討した。会報次号に開催の予告とテーマ・講演募集などについて掲載することとした。
3. 第16回講習会「探索的データ解析入門」の実施および会計報告を行なった。
4. その他
会報に掲載する原稿および内容などについて議論した。

▽▽▽ 会合記録 △△△

～～第16回 講習会～～

時　昭和六十年十月二十一日、二十二日の二日間
所　南青山会館（東京）
テーマ　「探索的データ解析入門」
講師　渡部　洋（東京大）
　　鈴木規夫（大学入試センター）
　　山田文康（同右）
　　大塚雄作（同右）
受講者　十六名

～～第40回月例シンポジウム～～
～～第7回行動計量関西懇話会～～

時　昭和六十年十一月二日
　　午後一時半～五時
所　大阪市立大学田中記念館
テーマ　「地理学における分析手法と行動論」
　　オーガナイザー
　　石川義孝（大阪市立大）
司会　生澤雅夫（同右）
発表　大場茂明（同右）
　　小方　登（奈良大）
　　石川義孝（大阪市立大）
参加者　十一名

会員数	（61・1・20現在）
名誉会員	一名
正会員	一、〇〇六名
準会員	九二名
賛助会員	三八社

▽▽ 月例シンポジウム △△

第41回「日本人研究のあり方」

日時　昭和六十一年二月一日（土）
　　午後一時～五時
場所　統計数理研究所　講堂
オーガナイザー　林知己夫
発表者　穐山貞登・原忠彦・河野裕明・鈴木達三・衛藤藩吉・河竹登志夫

第42回「三相データの解析方法」

日時　昭和六十一年二月七日（金）
　　午後一時半～五時
場所　統計数理研究所　研修室
オーガナイザー　宮埜寿夫
発表者　P・クローネンベルク、村上隆・岡太彬訓・犬飼幸男

☆第14回大会のお知らせ

所　東京大学・経済学部
時　昭和六十一年
　　八月二十五日（月）から
　　二十七日（水）まで三日間

昭和六十一年度の第14回大会は右の通り、東京大学で開催されます。会期は八月二十五日から二十七日までの三日間です。古川俊之理事（東京大学医学部）を中心に準備が順調に進められています。会員の皆様の多数のご発表、ご参加を期待します。

☆第2回サマーセミナーを開きます

一昨年にひき続きサマーセミナーを開催する予定です。時期は八月中旬、場所は富士教育研修所、二泊三日で計画しています。テーマは未定ですが、「行動計量とコンピュータ」といったものを考えています。パソコンからスーパーコンや第五世代、ネットワークまで、研究上での利用法や苦言、社会や人間への影響など、自由に発表・討論する場にしたいと思います。ご意見ご要望がありましたら運営委員会までお寄せください。

『学会賞』の新〝〟設と第一回の選考について

〝学会賞〟の授賞要領がまとまり、初回の選考が始まりました。第12回総会（東工大）で昭和61年度発足を決め、その後、賞の性格や選考方式を理事会等で検討してきたのが、いよいよ実行段階を迎えたわけです。理事会がまとめた授賞方針の大要は別掲の通りで、内容は第13回総会（北大）での中間報告と大差がありません。既に推薦人には候補者推薦を依頼しましたが、推薦人でない会員も、適当な候補者について最寄りの推薦人に、ご意見をお寄せください。

なお、候補者推薦の締切りは、61年3月末となっております。

一、学会賞の内容

①日本行動計量学会〝優秀賞〟

原則として四〇歳未満の研究者で、行動計量学に関する単数または複数の優れた研究業績を発表した個人または集団を対象とする。毎年1～2件を原則として授賞する。受賞者は、総会において表彰され、1件5万円の副賞が授与される。なお、優秀賞のニックネームを〝林（知己夫）賞〟とする。

②日本行動計量学会〝功績賞〟

優れた業績によって行動計量学の発展に著しく寄与したものを対象とする。原則として毎年1名とする。受賞者は総会において表彰され10万円の副賞が授与される。

二、受賞者の基礎資格

①個人授賞の場合は、会員（賛助会員を除く）に限る。集団授賞は会員が過半数の場合に限られる。

②優秀賞は、同一人または同一集団が反復して受賞できる。功績賞は一人1回に限られる。

三、対象とする研究業績

①〝賞〟は、研究上の業績に基いて〝人〟を表彰するものであり、特定の論文自体に与えるものではない。従って、業績は単数に限らず複数（数編の論文など）でよく、全体的にみて優れていればよい。

②業績には、研究論文の他、優れた分析プログラム、データベース、測定・分析機器の開発・改善や、優れた調査研究など、幅広い学術的成果を含める。

③業績は、その主たるものが「行動計量学」、「Behaviormetrika」、所属機関の刊行物（紀要、社内誌など）、一般誌、著書などに掲載されたものでなければならない。（他学会誌の論文が主たるものでは、いけない？）論文以外の業績についても、これに準ずる。

四、業績の対象時期

①優れた業績は長期に渡って形成されるものであるから、ある程度長期間をみるのが妥当である。過去10年程度を一応の目安にする。

②授賞制度の当初は、優秀賞の場合、年齢制限で不利となる会員のため、10歳程度の延長を許すなど、弾力的に考慮されるべきである。また、件数が多くてもよい。

五、選考の仕組

①選考委員会（理事会が委員長と委員を指名）が、推薦人（理事・監事・各種委員）に推薦要領等を送付し、候補者推薦を依頼する。

②推薦人以外の会員には会報等で選考の開始を伝え、推薦したい人があれば、その業績等を最寄りの推薦人に申し出るよう依頼する。

③委員会は、推薦結果を尊重し、各賞ごとに数件の候補に絞って審査し、最終的な候補者を選ぶ。

④理事会が委員会提案の候補者を承認したとき、受賞者が定まる。

学会誌バックナンバー購入のご案内

ご希望の巻・号名、冊数、および送付先・氏名を明記し、代金と送料を左記あてに郵便振替でお送り下さい。

◇請求先　〒一七一
東京都豊島区西池袋三丁目
立教大学社会学部岡太研究室内
行動計量学会事務局　岡太彬訓

◇振替
番　号　東京八－一四八〇五六
加入者　日本行動計量学会

◇和文誌『行動計量学』
1巻1号　（八百円）
2巻1・2号　（各七百円）
3巻1・2号　（各千円）
4巻1号　（千五百円）
4巻2号、5巻1・2号　（各千七百円）
6巻1号　（千二百円）
6巻2号　（二千円）
7巻～12巻の1・2号、および13巻1号　（各二千円）

◇欧文誌〝Behaviormetrika〟
No.1～18　（各二千円）

◇送料
一冊　二百四十円
三冊まで　三百五十円

「住民基本台帳法」改正について

柳原　良造

ご承知の通り「住民基本台帳法一部改正案」が昨年の国会で可決され、新法が成立しました。

この法改正については、「社会調査に当って、サンプリングのための住民台帳の利用が禁じられるのではないか」との危惧があり、本学会を含む社会学系六学会が連名で、善処を求める要望書を提出していました（会報36号参照）。

その後いろいろないきさつはありましたが、結論として、法文で従来通り、住民台帳の公開原則が継続され、サンプリングのために住民台帳と選挙人名簿を使用する途は保持されました。今春から法が施行されるので、法改正の要点についてご報告します。

まず、旧法第十一条の住民基本台帳閲覧の公開原則は、新法でも「何人でも、市町村長に対し、請求理由その他自治省令で定める事項を明らかにして、住民基本台帳の閲覧を請求することができる」との表現で第十一条に明示されています。ただし、傍線の部分が新たに付け加えられ、一定の制限が行われることも明確にされています。その制限については、同条第三項で「市町村長は、住民基本台帳の閲覧により知り得た事項を不当な目的に使用されるおそれがあると認めるとき…拒むことができる」と定められました。旧法では「…執務に支障がある場合その他正当な理由…」となっており、これをタテに多数の閲覧拒否が生じていた問題条文です。それが「不当な目的」とあいまいな表現ながらも、行政上の理由による従来の制限から、社会通念に基準をおきかえて、以前より合理的となりました。さらに、同条第二項に「住民台帳にかえてその（一部の）写しを閲覧に供してよい」主旨の条項が加わっており、以前より良いと思える条件も生まれています。

以上のように、使用目的の正当性を、自治省が省令で定める手続きに則って証明しさえすれば、我我は住民台帳や選挙人名簿を閲覧することができます。しかし、前記第三項の規定は、現実の場面では、戸籍係係官が市町村長に代って使用目的の正当性の判定を行うことであり、住民からの苦情の矢面に立っているこの係官が、甘い顔で応対してくれるとは考えられません。その判定は相当厳しいものと予想されます。

そこで閲覧請求に際しては、係官の主観に左右されない対応法や証明策を考えておくべきです。応対態度は当然のこと、調査計画や調査票の事前提出、誓約書押印、閲覧項目や閲覧数の自主的制限等が求められるものと充分予想されます。また、磁気テープが台帳とされた（第六条）ので、電算機使用を理由に、高額の閲覧料が請求されることもおこりそうです。これらへの対策も工夫されるべきでしょう。

今回の法改正では、プライバシー保護の観点が強く出されています。我々にとってもプライバシー遵守は、支持すべき重要事項であり、法の理念と合致しています。しかし、プライバシー意識の高まりに先行して、我々の研究の意義と、方法としての調査の重要性を社会に訴えない限り、将来は危いと思います。我々自身の努力によって、調査の社会的承認を得て、誤解による市民の行政窓口への圧迫を防ぐなど、なすべきことをなさないことには、折角、法によって承認されても実効を失うことになりかねません。ランダムサンプリングの土台を守るため、我々が我々の手で、あらゆる機会をとらえ、創り、社会へ訴求しつづけることが肝要であります。

（以上、小グループ・社会調査技法研究会活動報告にかえて）

やなぎはら・りょうぞう

社会調査技法研究会幹事

(株)マーケッティング・サービス

小グループ研究会

社会調査技法研究会 会員募集

当研究会は、論文読みを終え、本年より、実践研究に入ります。

この期に、会員を全国に拡げて再編成したく、改めて会員を募ります。地方会員にはレポートを送り意見を聞く方式とします。応募はハガキを左記へお送り下さい。

研究代表　鈴木達三

送先〒一〇六　東京都港区南麻布四の六の七

統計数理研究所　中村　隆